

# 在来種よりも早く収穫できるエゴマ新品种「No. 7」の特性

～もっと早く！もっと楽に！収穫したいだらあ！～

甲村 瞭次（東京事務所行政課農産物プロモーショングループ  
前・農業総合試験場山間農業研究所園芸研究室）

【2026年5月掲載】

## 【要約】

農業総合試験場山間農業研究所で開発したエゴマ新品种「No. 7」（出願登録名「稲武3号」）は、在来種「名倉」よりも開花・収穫時期が早いことから、早霜の被害を回避でき、「名倉」と組み合わせて栽培することで収穫時期の分散が可能である。また、主茎長が短く、茎径が細いコンパクトな草姿であることから、刈り取り収穫がしやすい。これらの特性により、「No. 7」を導入することで、収穫作業の軽労化が実現でき、栽培面積の拡大が期待できる。

## 1 はじめに

エゴマは主に北設楽郡設楽町で特産として栽培され、収穫した子実は五平餅のたれやエゴマ油に加工・販売されている。地域では在来種「名倉」が栽培されているが、10月下旬の早霜で収量が低下し、播種時期を変えても開花・収穫時期が変わらないため、収穫作業が集中して栽培面積を広げにくいという課題があった。このため、早霜を回避でき、「名倉」と組み合わせることで、収穫時期の分散が可能な早生品種を開発したので紹介する。

## 2 品種の概要

### （1）開花・収穫時期

「No. 7」の開花期は、「名倉」より1か月程度早い（表1）。エゴマを含むシソ科植物は、他品種と容易に交配し、品種の特性が変化する可能性があるが、「No. 7」と「名倉」の開花時期は重ならないため、交配のリスクは低い。

また、収穫時期も1か月程度早い（表1）ことから、収穫作業の分散が可能であり、10月下旬に、しばしば発生する早霜による被害を回避できる。



写真1 収穫時期の「No. 7」  
（2023年9月19日に撮影）

表1 開花・収穫時期（山間農業研究所内ほ場）

年	品種	播種日	定植日	開花日		収穫日
				開花はじめ	開花終わり	
2021	「No. 7」	6/12	7/8	8/12	8/30	9/24
	「名倉」			9/19	10/4	11/2
2023	「No. 7」	6/15	7/7	8/12	9/9	9/24
	「名倉」			9/22	10/10	11/1

## (2) 生育・収量特性

「No.7」は、「名倉」と比較して、株当たりの子実収量が低く、千粒重が重い。また、主茎長が短く、茎径が細く、側枝数が少ないことから、コンパクトな草姿となっている(表2)。生産現場では、鎌や剪定ばさみを用いた刈り取り収穫が一般的であるため、「No.7」は収穫作業が容易となっている。

現地ほ場においては、場内試験と同様に「No.7」の株当たりの子実収量は、「名倉」よりも少なかったが、栽植密度を1.5倍に高めることで、面積当たりの子実収量は「名倉」と同等となった(表3)。

表2 生育・収量特性 (山間農業研究所内ほ場)

年	品種	子実収量 (g/株)	千粒重 (g/1000粒)	主茎長 (cm)	茎径 (mm)	1次 側枝 (本)	2次 側枝 (本)	節数 (節)
2021	「No.7」	11.5	3.6	114.5	11.5	19.0	48.9	9.7
	「名倉」	19.0	2.7	157.1	14.8	27.4	63.9	14.8
2023	「No.7」	17.2	3.4	131.9	12.4	19.5	65.9	10.4
	「名倉」	27.2	2.5	190.6	20.3	33.8	164.8	17.6

表3 現地における収量特性 (設楽町現地ほ場)

品種	栽植密度 株/m <sup>2</sup>	株当たり 子実収量 g/株	面積当たり 子実収量 g/m <sup>2</sup>
「No.7」	18.5	4.6	84.9
「名倉」	12.3	6.8	83.7



写真2 草姿 (左「名倉」、右「No.7」)

## (3) 食味特性

「No.7」の子実を用いて五平餅のたれに加工し食味調査を実施した結果、「No.7」の食味は「名倉」と同等であった(表4)。このため、「No.7」は「名倉」と同様に出荷販売が可能である。

表4 食味特性

品種	旨み	風味	食感	総合評価
「No.7」	0.13	-0.19	0.31	-0.06

※ 2022年9月に収穫したエゴマの子実を五平餅のたれに加工し、評価した。評価者は、生産者、行政関係者、道の駅食堂部(実需者)で、合計16名。

※ 「旨み」、「風味」、「食感」、「総合評価」は「名倉」を基準(0)とし、優を2、劣を-2とし5段階で評価した。



写真3 エゴマだれの五平餅